

平成29年度 地方創生推進交付金事業 及び

地方創生拠点整備交付金事業の効果検証（結果公表資料）

○地方創生推進交付金事業一覧

No.	交付金対象事業の名称	担当部課名
1	◆稼ぐ地域が人を呼ぶ！移住地としての『とうおん』ブランド創生事業	総務部 企画政策課
2	◆瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業 ～更なる観光戦略の深化と地域連携（東温市、砥部町）による活性化事業～	産業建設部 産業創出課
3	◆“奇跡の劇場”が世界を変える！アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業	総務部 企画政策課

○地方創生拠点整備交付金事業一覧

No.	交付金対象事業の名称	担当部課名
4	◆アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業	総務部 企画政策課

東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成29年度当初予算事業)

1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費		
1	◆稼ぐ地域が人を呼ぶ！ 移住地としての『とうおん』ブランド創生事業	平成29年4月	平成30年3月	35,237,400円		
事業全体の概要						
平成28年度地方創生加速化交付金事業の継続事業として、平成29年度～30年度の2ヵ年計画（合計3ヵ年計画）で実施する。市内中山間地域4地域（滑川、河之内、井内、奥松瀬川）の地域運営組織と市が協働して、地域資源を活用した商品・サービスを開発して人を呼び込み、それを市全体の魅力や活力向上に波及させることを目的とする。 具体的には、4組織の活動拠点施設で提供する商品・サービスのブラッシュアップ、新規の体験プログラム等の開発、組織の経営能力強化に取り組む。また、中山間地域における特徴的な人・サービス・イベント等を市のシティプロモーションに活用し、市の認知度や好感度の向上効果を中山間地域への移住だけでなく、街なかへの移住にも連鎖的に波及させるプロモーションを展開することで、市全体への転入者の増加を目指す。						
交付金事業として採択されたポイント						
①自立性	②官民協働	③政策間連携	④事業推進主体の形成	⑤地方創生人材の育成・確保		
地域運営組織が3～5年以内に国の交付金に頼らずに自立することを目指す。	市、移住定住促進協議会、地域運営組織、まちづくり団体、商業施設、劇場などが連携して実施する。	総合戦略施策（集落の維持・活性化、アクティブシニアの推進、地域情報の発信など）を連携させる。	東温市移住定住促進協議会、地域運営組織（4地区それぞれ）が事業推進主体として発足する。	地域おこし協力隊が事務的・技術的支援を行いながら、地域人材にノウハウを伝え、引き継いでいく。		
事業を構成する個別事業名		事業費	対象経費	財源内訳		
				推進交付金	地方債	一般財源
1	移住地「とうおん」ブランド創生事業	22,508,400円	22,478,145円	11,239,072円	0円	11,269,328円
2	移住・就業体験事業	2,874,000円	2,874,000円	1,437,000円	0円	1,437,000円
3	頑張る中山間地域等支援事業	9,855,000円	9,823,000円	4,911,500円	0円	4,943,500円
合 計		35,237,400円	35,175,145円	17,587,572円	0円	17,649,828円

2. どのように実行したか(Do)

個別事業の実施内容	個別事業の実施結果
1 移住地「とうおん」ブランド創生事業(決算額:22,508,400円) (1) 移住地とうおんブランド創生支援業務(決算額:8,100,000円) ・ 外部委託により、地域運営組織の関係者を対象とした会計実務講習、商品・サービスのブラッシュアップ提案等を実施。 ・ 平成28年度に策定した移住定住促進マスタープランの進捗状況を整理し、改善策を検討。	・ 各地域の取組に応じた講師を招聘したことにより、組織内でのビジネス視点・商品企画力が高まった。 ・ 移住促進策については進んでいるが、定住促進策が弱いとの指摘がある。
(2) シティプロモーション推進業務(決算額:11,718,000円) ・ 専門業者に委託し、市担当者、移住コンシェルジュ、地域おこし協力隊、地域運営組織構成員を対象としたシティプロモーションの手法、記事作成スキル等に関する講習を実施。 ・ 専門業者に委託し、市管理のサイト・SNSページから記事を選定し、インターネット広告を実施。また、山暮らし、まち暮らし特設ページを作成し、インターネット広告により誘導。	・ 写真の撮り方や記事の書き方など、実践的な内容であったため、自主メディアに投稿する記事の質が向上し、ホームページ閲覧数、市フェイスブックいいね！数が増加した。 ・ 都市と自然が程よく近接する環境を、年間のイベントに絡めてPRしたところ、志津川分譲地の問い合わせ・販売数が目覚しく増加、販売好調となっている。(H29も転入超過)
(3) 移住定住促進協議会補助金(決算額:2,690,400円) ・ 移住定住促進協議会に対する補助金。同協議会「移住サポート部会事業」に係る経費が対象。 ・ 同協議会は、まちづくり団体に「とうおんの暮らし方フリーペーパー」発行体制構築を委託。また、移住フォーラム、首都圏在住大学生の長期滞在による地域観光プログラム提案事業などを委託。	・ 協議会がまちづくり団体に委託したフリーペーパー発行体制構築業務は、移住者視点で暮らし情報を発信するもので、今後は同団体が広告協賛等により定期的に発行する。 ・ 学生4名は井内「人空田」に1週間宿泊し、東温市滞在プランを提案。しかし旅行会社は道後など既存観光スポットと組み合わせなければ商品化は困難との見解。ビジネスの観光と、移住に繋がる交流プログラムは分けて企画する必要がある。
2 移住・就業体験事業(決算額:2,874,000円) ・ 地域運営組織に対する補助金。当該年度は、気軽に地域を訪れ、単なる観光だけではなく顔の見える関係づくりを目指した「地域体験プログラム」の企画・準備・試行等の事業を募集・実施。	・ 奥松瀬川は交流拠点「ほっこり奥松」の機能強化、井内は急峻な棚田を子どもが駆け上がる「宝探しマラソン大会」、滑川は自然とアート・食を組み合わせた宿泊体験イベント、河之内は新規サービス「ボタリング」と「トレイルライド」の試走イベントを実施。
3 頑張る中山間地域等支援事業(決算額:9,823,000円) ・ 地域運営組織に対する補助金。地域運営組織が自らの地域の課題解決に向けて自主的・自立的に取り組む提案事業をプレゼンテーション審査により選定し、実施。	・ 共通事項として、会計ソフトの導入と情報発信の強化。奥松瀬川は交流農園「ぼんぼこ農園」の機能強化、井内は交流拠点「人空田」の簡易宿所営業許可取得、滑川は清流コーヒーに続く新商品開発、河之内はカフェkuromoriを中心とした景観整備を実施。

3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標（KPI）①	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
移住定住促進協議会及び地域運営組織が提供する移住サポート・体験プログラム等を通じた移住者数(家族を含む)	基準値	6 人	目標値	10 人	20 人	30 人
			実績値	12 人	人	12 人
			達成率	120.0 %	0.0 %	40.0 %
重要業績評価指標（KPI）②	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
地域運営組織の法人化件数	基準値	0 件	目標値	1 件	1 件	2 件
			実績値	0 件	件	0 件
			達成率	0.0 %	0.0 %	0.0 %
重要業績評価指標（KPI）③	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
地域運営組織が管理する拠点施設への年間来館者数(平成28年度に開設した4箇所の合計人数)	基準値	700 人	目標値	3,300 人	7,300 人	10,600 人
			実績値	9,764 人	人	9,764 人
			達成率	295.9 %	0.0 %	92.1 %
重要業績評価指標（KPI）④	事業開始前			H29年度	H30年度	増加の累計
地域運営組織が提供する物産、体験プログラム等の年間売上額(平成28年度に設立した4組織の合計額)	基準値	300 千円	目標値	1,700 千円	3,700 千円	5,400 千円
			実績値	6,335 千円	千円	6,335 千円
			達成率	372.6 %	0.0 %	117.3 %

①事業成果に対する分析

【成果の上がった点及びその原因】

KPI①(移住者数)、KPI③(拠点施設の来館者数)、KPI④(物産、体験プログラム等の売上額)は、事業効果により堅調に数字を伸ばしている。最も大きい要因は、奥松瀬川地区の交流拠点「ほっこり奥松」が、多くの地域住民が参画できる運営システムを作り上げ、それぞれの販売部門が責任を持ってサービスを実践することで、継続的なビジネス化に繋がっていることである。そういった地域住民の機運向上と移住サポート活動が契機となり、現在の事業実践者の子ども世代のUターンが相次ぎ、移住者数も7名と奥松瀬川が全体を引っ張っている状況である。その他、井内「人空田」周辺展望見学と農家レストランでの地域住民との談話、交流を通じて移住を決意された事例もあり、豊かな景観(インパクト)と、地域住民と移住検討者の顔の見える交流(安心感)を効果的に組み合わせた体験が移住の決め手と考察している。

【成果の上がらなかった点及びその原因】

奥松瀬川を除く3地区は、自立的かつ継続的な組織体制の構築が発展途上であり、現在はそれぞれの拠点施設を活用したビジネスを少人数の参画者で実践している状況となっており、地域内外の参画者をどう巻き込むかが課題となっている。また、各組織の売上額もまだまだ少額であることもあり、組織の法人化については4地区とも目途が立っていない。

②委員のご意見

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・移住者のカウントの仕方は各種あるが、それぞれ整理しておく必要がある。 ・地域運営組織の売上高が上がっているのは評価できるが、自立化に向けて、どれくらいの損益があるのかなど、より詳細な数値を次回からは示して欲しい。 ・Uターンが相次いだのは良いことであるが、移住施策としては、Uターン以外の県外の方向けの施策も必要になってくると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションについては、専門業者に委託したら一定の成果が出ると思うが、業者に全て任せなくても継続的に取り組める仕組みにしていけるとよい。 ・評価においては、定量的なKPIだけでなく、定性的な部分も示して欲しい。 ・中山間地域で体験プログラム開発や拠点運営など、努力が伝わってくる。これらの取組を移住定住支援ポータルサイトにもっと掲載して欲しい。 |
|---|---|

③事業評価及び今後の方針

事業評価	地方創生に非常に効果があった	地方創生に効果があった	地方創生に一部効果がみられた	地方創生に効果がなかった
今後の方針	事業内容の追加又は変更を行い、発展的に実施する	事業内容の改善・見直しを図りながら継続する	事業の一部は継続、一部は廃止する	事業全体を廃止、又は中止する

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案

【成果の上がった点に関する方針及び具体策】

- ・地域運営組織の商品・サービスの質をさらに高めると同時に、平成30年度は各地域が連携した周遊ツアー等の商品化を進める。
- ・地域運営組織の拠点施設を中心とした体験プログラムを、移住定住支援ポータルサイトに積極的に掲載し、県外者への認知向上を図る。

【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】

- ・地域運営組織の売上向上及び人員の増加・スキルアップを進め、法人化等の組織のあるべき姿を地域住民が共有できるように支援する。
- ・地域運営組織の売上や集客数だけでなく、人件費が回り自立度が高まるように、収支状況をより詳細に把握する。

【事業全体としての改善点】

- ・人的支援として導入している地域おこし協力隊中心の運営から、住民中心の運営に転換していく。
- ・定量的なKPIだけでなく、定性的なKPIを独自に設定するなどして、総合的観点で地方創生に繋がったかどうかを確認しながら、継続的に取り組んでいく。

東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成29年度当初予算事業)

1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費			
2	◆瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業　～更なる観光戦略の 深化と地域連携(東温市、砥部町)による活性化事業～	平成29年4月	平成30年3月	1,176,000円			
事業全体の概要							
平成28～32年度の5ヶ年計画による広域連携事業(松山市・東温市・砥部町)として実施する。 今後進む人口減少社会の中において、地域活力を低下させることなく、松山圏域の多様な1次・2次産品や「道後温泉」「松山城」といった観光需要をうまく取り込むことが地域の活性化につながるため、観光交流人口の拡大を図り、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域密着型の観光地域づくりが必要となっている。 松山市が「広域観光連携推進協議会」を構成する東温市、砥部町で連携して観光エリアを拡大し、松山の先につながる観光周遊ルートの構築、「温泉」、「浴衣(着物)」、「俳句・文学」、「日本酒」、「四国遍路」「自然」「忽那諸島」などをテーマに、瀬戸内エリアや近隣市町の観光素材をつなぎ合わせた、テーマ型広域エリア周遊旅行商品の造成などに取り組み、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。							
交付金事業として採択されたポイント							
①自立性		②官民協働	③政策間連携	④地域間連携			
参画する自治体や民間事業者からの負担金、事業や旅行商品に係る収入などの自主財源を確保する。		自治体間の地域連携DMOを設立し、大手旅行会社や航空会社など、多様な関係者で事業を展開する。	観光産業の振興と離島地域の活性化を融合させ、交流人口拡大、新産業創出、人材育成に繋げる。	関西から広島・そして松山の流れを→島しょ部→松山圏域→愛媛エリア→四国エリアへの拡大を図る。			
事業を構成する個別事業名			事業費	対象経費	財源内訳		
					推進交付金	地方債	一般財源
1	瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業		1,176,000円	1,176,000円	588,000円	0円	588,000円
						0円	0円
						0円	0円
合　計			1,176,000円	1,176,000円	588,000円	0円	588,000円

2. どのように実行したか(Do)

個別事業の計画	個別事業計画の実施結果
1 広域観光連携推進協議会負担金(決算額:1,176,000円) 松山市・東温市・砥部町「広域観光連携推進協議会」による『松山圏域連携中枢都市圏での観光連携に向けた取組み』として、瀬戸内海エリアや近隣市町の観光素材をつなぎ合わせた旅行商品の開発などにより、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るため、市負担金を拠出。	各市町の負担金内訳 松山市 3,710,000円 東温市 1,176,000円 砥部町 1,114,000円 計6,000,000円
(1) 誘致宣伝事業 2市1町への観光客の誘致宣伝を図るため、各市町の職員が県外に赴き、「漱石と子規」「坊っちゃん劇場」「砥部焼き」など、地域の資源を活用しながらの誘致宣伝活動を実施。	- 東京都新宿区、中央区、広島市(2回)において誘致宣伝活動を行い、各市町のパンフレットの配布、特産品が当たるガラボン、ゆるキャラ等による観光PRを行った。 - 新宿歴史博物館では、初となる「坊っちゃん劇場ミニ公演」により東温市を特にPRする機会となった。
(2) パンフレット等誘致宣伝物作成業務 - 誘致宣伝活動における情報発信や誘客を図るため、パンフレットや、ノベルティグッズ等を作成。 - 温泉をテーマとした割引チケットを作成し、県外でのイベント等で配布。	誘致宣伝のためのパンフレット等の作成を行った。 パンフレット 【ぐるっと巡る！四国 松山・東温・砥部】 温泉施設割引券 【松山市:道後温泉、東温市:さくらの湯、 砥部町:とべ温泉 湯砥里館】 日本語版・英語版
(3) 周遊観光促進事業 広域観光周遊の促進を図るため、「魅力ある周遊観光モデルルートの検討」などを実施。	- 酒蔵ツーリズム造成事業 2市1町をお酒でテーマ付けした着地型旅行商品の造成。 現地視察・留学生によるモニターツアーを実施。 東温市では、棚田の景観を魅力とする井内地区の「ぼたん茶屋」でどぶろくに関して案内。 - 広域観光連携魅力映像撮影事業 松山市・東温市・砥部町の魅力を効果的に発信するために、ドローンで撮影した映像をもとにPR動画(DVD)を制作し県内外へ広くPRする。(2市1町のダイジェスト版と各市町版)

3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI) 1	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
松山市の観光入込客数	580 万人	10 万人	10 万人	0 万人	0 万人	0 万人	20 万人
		2.79_3 万人	21 万人	万人	万人	万人	24 万人
		30.0 %	210.0 %	%	%	%	120.0 %
重要業績評価指標 (KPI) 2	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
松山市の外国人観光客延べ宿泊者数	130,000 96,100 人	20,000 人	20,000 人	30,000 人	30,000 人	30,000 人	130,000 人
		57,500 38,600 人	44,200 人	人	人	人	82,800 人
		193.0 %	221.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	63.7 %

①事業成果に対する分析				
【成果の上がった点及びその原因】 瀬戸内・松山構想を中核とした広域かつ官民連携による取り組みをはじめ、えひめ国体・えひめ大会の開催に合わせて新温泉施設「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」を整備したことなどが観光客増加の要因となっている。 【成果の上がらなかった点及びその原因】 東温市にどの程度の交流人口の影響や地域経済の波及効果があったかが測りにくいところは課題。				
②委員のご意見				
・この事業の効果として東温市に流入した観光客数が増えたか減ったか把握できない以上、「地方創生に効果があった」と明確には評価しにくい。 ・現時点で東温市に対する効果が図りづらいのであれば、あえて厳しめの評価をする方が今後努力するきっかけにもなると思う。 ・松山市への宿泊客が1泊2日だと、東温市に効果が波及したと想像できにくい、2泊3日		の観光客が増えた等のデータが取れば、事業効果を判断する目安にはなる。 ・松山市が観光情報を発信する際に、いかに東温市の情報を一緒に載せられるかがポイントになってくると思う。このためには松山市に情報提供をしなければならない。 ・この事業で作ったコンテンツを、東温市単体としても活用していくべきである。		
③事業評価及び今後の方針				
事業評価	地方創生に 非常に効果があった	地方創生に 効果があった	地方創生に 一部効果がみられた	地方創生に 効果がなかった
今後の方針	事業内容の 追加又は変更を行い、 発展的に実施する	事業内容の 改善・見直しを図りながら 継続する	事業の一部は継続、 一部は廃止する	事業全体を廃止、 又は中止する

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案
【成果の上がった点に関する方針及び具体策】 ・周遊観光客の誘致促進のため、東温市の魅力ある地域資源のブラッシュアップや受入体制の構築・強化を図る。 【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】 ・東温市への効果について、砥部町を含め、広域で把握方法等について検討する。 ・松山市との情報連携を更に強化し、作成したドローン映像などのコンテンツを有効に活用する。 【事業全体としての改善点】 ・2市1町でのテーマ型広域周遊商品の商品化に向けた取組を継続して行う。 ・東温市内での各体験メニューを、広域観光商品のメニューとして提供できるようブラッシュアップを進める。

東温市 地方創生推進交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成29年度当初予算事業)

1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費				
3	◆“奇跡の劇場”が世界を変える！ アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業	平成29年4月	平成30年3月	43,919,956円				
事業全体の概要								
本市は、移住促進や観光振興を進めるうえで、認知度の低さが大きな課題となっているが、坊っちゃん劇場による舞台芸術の各種取組は全国の舞台関係者に知られるところとなった。これをチャンスと捉え、本市を舞台芸術関係者の集うまちとする「アートヴィレッジとうおん構想」を平成28年度に開始し、平成30年度までの3ヵ年計画で交付金事業に取り組んでいる。 具体的には、多様な舞台芸術の観賞プログラムの提供、アーティストの生活の糧となる舞台芸術のサービス事業化、8K技術による舞台芸術の流通促進と普遍化、俳優養成所の開設などの人材育成事業を計画しており、これらを通じて舞台芸術の聖地化(オンリーワンのまちづくり)を図ることで、市の認知度を向上させ、観光誘客及び移住者の増加に繋げる。また、本事業と並行して、文化交流施設「東温アートヴィレッジセンター」を整備し、ハード・ソフト一体となって文化芸術による地域の活性化・地方創生の実現を目指す。								
交付金事業として採択されたポイント								
①自立性		②官民協働		③政策間連携		④事業推進主体の形成	⑤地方創生人材の育成・確保	
移住定住促進協議会と坊っちゃん劇場が協働して事業を立上げ、3～5年以内に自立化を目指す。		市、移住定住促進協議会、坊っちゃん劇場、地域運営組織がそれぞれの強みを持ち寄り連携する。		総合戦略施策(市内施設の観光・交流拠点化、新規産業支援、地域情報の発信など)を連携させる。		東温市移住定住促進協議会内に「アートヴィレッジ推進部会」を形成する。	舞台芸術の専門人材を地域おこし協力隊として誘致、本事業を通じて企画マネジメント人材として育成する。	
事業を構成する個別事業名				事業費	対象経費	財源内訳		
						推進交付金	地方債	一般財源
1	アート・ヴィレッジとうおん創生事業			43,919,956円	43,617,993円	21,808,996円	0円	22,110,960円
							0円	0円
							0円	0円
合 計				43,919,956円	43,617,993円	21,808,996円	0円	22,110,960円

2. どのように実行したか(Do)

個別事業の実施内容	個別事業の実施結果
1 アート・ヴィレッジとうおん創生事業(決算額:43,919,956円) (1) アート・ヴィレッジ 構想プロモーション業務(決算額:12,992,400円) ・ 広告会社に委託し、ロゴ制作、施設名考案、チラシ・ポスター制作、PR動画制作、プロモーション戦略立案、記念公演の準備を実施。	・ 東温アートヴィレッジセンターの開館が予定より遅れたため、年度後半に業務が集中したが、構想ロゴや施設ロゴ、施設の愛称「シアターNEST」が考案され、各種媒体を用いて構想及び施設の認知度の向上を図った。また、記念ミュージカル「しんみんさん」、地域おこし協力隊のプロデュース・出演によるPR動画などを制作し、動画はYouTubeで公開し、SNS等で拡散中。
(2) 市民ミュージカル「城ノブ」観月祭出演(決算額:684,410円) ・ 坊っちゃん劇場に委託し、観月祭用に「城ノブ」をアレンジ。専門業者に委託し、特設ステージと音響・照明設備をレンタルして上演。	・ 「とうおん市民花火観月祭」に特設ステージを設けて市民ミュージカル出演者によるパフォーマンスを実施し、ステージ前では約500人が観劇。MCを入れるなどして構想の周知。
(3) アート・ヴィレッジ センタープレオープンイベント開催業務(決算額:1,019,520円) ・ 坊っちゃん劇場に委託し、東温アートヴィレッジセンターのプレオープンイベントの企画、制作、当日の司会進行等を総合的に実施。	・ 平成30年4月1日オープンの前日となる3月31日、開館を記念して小劇場でテーブルカット、コーラスの後、多目的稽古場でのダンス大会や交流スペースでのアートワークショップを実施し、約900名が来場。開館後の利用予約に結び付けた。
(4) 移住定住促進協議会補助金(決算額:29,173,126円) ・ 移住定住促進協議会に対する補助金。同協議会「アートヴィレッジ推進部会」が実施する事業経費が対象。 ① 地域景観を活用したプログラムの企画、試行 ・ 中山間地域の拠点施設等を活用した演劇公演等 ② 演劇体験・アートセラピー等の企画、試行 ・ ダンスWS、楽器づくりWS、劇作WS、ミニ音楽ライブ等 ③ アーティスト向けシェアアトリエの整備 ・ 滑川地区の空き家及び周辺をアトリエとして整備 ④ 俳優養成人材のスキルアップ研修 ・ 俳優養成人材育成WS ⑤ ミュージカルワークショップ等の開催 ・ スポーツ少年向けWS、高齢者向けWS ・ 高齢者施設でのコメディミュージカル公演	・ 地域おこし協力隊(アートヴィレッジ担当)が企画し、多種多様な文化芸術関連プログラムの試行と結果分析を行った。 ・ 滑川清流の森で音楽ライブ、河之内・カフikuromoriで音楽×舞踏公演、井内・ぼたん茶屋でスタンダップコメディ公演を実施。 ・ クールスモールでダンスWSと子供向け劇作WS、滑川清流の森で親子向け楽器づくりWS、まちづくり団体主催イベントとの連携ライブ、井内ぼたん茶屋で音楽ライブ、高畠華宵大正ロマン館で伝統文化トークセッションを実施。 ・ 滑川地区の空き家をアーティストの滞在拠点として整備。管理運営は滑川地域運営組織「滑川清流クラブ」。 ・ 対象を俳優経験者に絞り、歌、ダンス、芝居など各分野の指導専門家を招いて「教えるスキル」を教える研修を実施。 ・ 役者のスキルを活用してスポーツ少年(今回は野球)の柔軟性と運動センスを鍛えるWS、高齢者向け脳活WS、高齢者施設でのコメディミュージカル公演を実施。

3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標（KPI）①	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	増加の累計
演劇関連産業への従事や演劇技術の修得、研鑽等を目的とした移住者数（家族を含む）	基準値	12 人	目標値	3 人	20 人	20 人	43 人
			実績値	3 人	10 人	人	13 人
			達成率	100.0 %	50.0 %	0.0 %	30.2 %
重要業績評価指標（KPI）②	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	増加の累計
レスパシティ（坊っちゃん劇場が所在する商業施設）の入場者数（現状値：過去3年間の平均値）	基準値	3,430,000 人	目標値	5,000 人	20,000 人	20,000 人	45,000 人
			実績値	13,000 人	-29,000 人	人	-16,000 人
			達成率	260.0 %	(145.0) %	0.0 %	(35.6) %
重要業績評価指標（KPI）③	事業開始前			H28年度	H29年度	H30年度	増加の累計
坊っちゃん劇場観劇者数（現状値：過去3年間の平均値）	基準値	72,919 人	目標値	1,000 人	2,000 人	3,000 人	6,000 人
			実績値	8,864 人	7,303 人	人	16,167 人
			達成率	886.4 %	365.2 %	0.0 %	269.5 %

①事業成果に対する分析

【成果の上がった点及びその原因】

KPI①(移住者数)については、構想の具体化により舞台芸術関係者の移住が生じている。坊っちゃん劇場の役者が出演終了後も東温市に残り、本事業の企画に参加する事例も出てきている。KPI②(レスパス入場者数)及びKPI③(坊っちゃん劇場観劇者数)は、本事業による市全体への交流人口拡大状況を測る指標として設定しているが、周知PR事業等の効果がKPI③に波及していることが確認できる。本KPIでは測定していないが、本事業は文化芸術による地域振興施策として全国の自治体関係者に徐々に認知されてきており、遠く北海道からの視察事例も出てきている。また、8K映像化事業の進展は構想の広告塔として、国際的な文化・観光交流の可能性を高めている。

【成果の上がらなかった点及びその原因】

KPI③が伸びているにも関わらず、KPI②(レスパス入場者数)が伸びていないのは、舞台芸術で呼び込んだ集客を、エリア全体の消費拡大に波及させる連携策や仕組みが不十分であったものと推察する。

②委員のご意見

- ・基準値がマイナスになっているのに、地方創生に効果があったとの判断は難しいのでは。
外部要因など事情があるのであれば、基準値の見直しを検討してみてもどうか。
- ・入場者等の全体の数字だけでなく、こういった世代が来ているのかも分析が必要。
- ・定量的な評価だけでなく、定性的な評価の部分も示してほしい。
- ・公演、イベント等の情報がまだまだ広報できていない。
- ・フェイスブックだけではなく、広く広報できる体制づくりを考えると良い。

③事業評価及び今後の方針

事業評価	地方創生に 非常に効果があった	地方創生に 効果があった	地方創生に 一部効果がみられた	地方創生に 効果がなかった
今後の方針	事業内容の 追加又は変更を行い、 発展的に実施する	事業内容の 改善・見直しを図りながら 継続する	事業の一部は継続、 一部は廃止する	事業全体を廃止、 又は中止する

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案

【成果の上がった点に関する方針及び具体策】

- ・構想に関わっている人材の活動内容を詳細に発信することで、さらに多くの移住人材を呼込む。

【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】

- ・東温アートヴィレッジセンター・坊っちゃん劇場・レスパス内各店舗の連携商品の検討を求めていく。
- ・公演、イベント等の情報を広く市内外に拡げるための広報の仕組みを整備する。

【事業全体としての改善点】

文化芸術と観光の連動を図るため、市内各地域を周遊・宿泊するアートと自然の体験ツアー等の商品化を図る。

東温市 地方創生拠点整備交付金事業 PDCA効果検証シート

(平成29年度繰越明許予算事業・平成29年度当初予算事業)

1. どんな計画か？(Plan)

No.	交付金対象事業の全体事業名	事業開始	事業終期	全体事業費				
4	◆アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業	平成29年3月	平成30年3月	85,596,960円				
事業全体の概要								
本市は、文化芸術による地域振興施策「アートヴィレッジとうおん構想」を平成28年度に開始し、地方創生推進交付金（H28年度～H30年度計画）を活用し、文化芸術関連の各種サービス事業の企画・開発・試行に取り組んでいる。 本事業では、今後、同構想を推進していくうえでの中核施設として、坊っちゃん劇場に隣接する商業施設「クルース・モール」の一部（約300坪）を市が借り受け、「アート・ヴィレッジ『とうおん』創生拠点施設」（現：東温アートヴィレッジセンター）として整備する。 整備後は、東温市移住定住促進協議会を中心とする運営組織を指定管理者として指定し、当該運営組織が施設維持管理、利用者管理、文化芸術関連の企画事業を一元的に実施することにより舞台芸術の聖地化を図り、アーティストの移住促進や市の認知度向上、交流人口の拡大など、市全体に効果を波及させていくことを目指す。								
交付金事業として採択されたポイント								
①自立性		②官民協働		③政策間連携		④事業推進主体の形成	⑤地方創生人材の育成・確保	
移住定住促進協議会を中心とした運営組織を立上げ、3～5年以内に自立を目指す。		市、移住定住促進協議会、坊っちゃん劇場が協働して事業を実施する。		総合戦略施策（市内施設の観光・交流拠点化、新規産業支援、地域情報の発信など）		東温市移住促進協議会内に「アート・ヴィレッジ推進部会」を形成する。	劇場施設の運営経験や音響・照明などの専門的スキルを持つ人材を地域おこし協力地として誘致、育成。	
事業を構成する個別事業名				事業費	対象経費	財源内訳		
						拠点整備交付金	地方債	一般財源
1	アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業（平成29年度繰越明許予算）			82,032,960円	76,184,000円	38,092,000円	38,000,000円	5,940,960円
2	アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業（平成29年度当初予算）			3,564,000円	0円	0円	0円	3,564,000円
							0円	0円
合 計				85,596,960円	76,184,000円	38,092,000円	38,000,000円	9,504,960円

2. どのように実行したか(Do)

施設整備計画と工事実績

◆アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業(平成29年度繰越明許予算)

1 アート・ヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事設計監理業務(決算額:5,886,000円)

(1) アート・ヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事設計業務(4,752,000円)

受託者 新企画設計株式会社

履行期間 平成29年6月2日～平成29年8月31日(変更後:平成29年6月2日～平成29年11月30日)

(2) アート・ヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事施工監理業務(1,134,000円)

受託者 新企画設計株式会社

履行期間 平成29年11月16日～平成30年3月31日

2 アートヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事(決算額:71,813,240円)

(1) アートヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事(70,298,000円)

請負者 株式会社 岡崎工務店

履行期間 平成29年11月21日～平成30年3月25日

(2) アートヴィレッジセンター小劇場舞台床組工事(1,299,240円)

請負者 株式会社 岡崎工務店

履行期間 平成30年3月2日～平成30年3月25日

(3) アートヴィレッジセンター交流サロン電気工事(216,000円)

請負者 株式会社 岡崎工務店

履行期間 平成30年3月22日～平成30年3月25日

3 東温アートヴィレッジセンター施設用備品の購入(決算額:4,275,720円)

(1) アートヴィレッジセンター音響備品の購入(3,996,000円)

(2) アートヴィレッジセンター演出補助備品(リノリウム)の購入(279,720円)

4 指定管理者の選定(決算額:8,000円)

東温アートヴィレッジセンター指定管理者選定委員謝礼(8,000円※審査委員1名分)

⇒指定管理者として、東温市移住定住促進協議会及び株式会社ジョイ・アートによる共同事業体が選定され、平成30年4月1日の開館日から運営管理業務を開始した。

5 建築確認(用途変更)申請(決算額:50,000円)

アートヴィレッジとうおん創生拠点施設整備工事に係る建築確認(用途変更)申請手数料(県証紙購入代)

◆アート・ヴィレッジ「とうおん」創生拠点施設整備事業(平成29年度当初予算)

1 東温アートヴィレッジセンター照明備品の購入(決算額:3,564,000円)

受託者: 株式会社 四国舞台テレビ照明 松山事務所

納入期限: 平成30年3月24日

納入品: ・DMXコントローラー CS40 ×1台
 ・LEDパライト用ランプ CORVO 2(×20台 など

3. 効果はどうであったか？(Check)

重要業績評価指標 (KPI)①	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
アート・ヴィレッジ「とうおん」 創生拠点施設における演劇 関連サービスの売上額	20,000 千円	0 千円	5,000 千円	55,800 千円	62,500 千円	70,000 千円	193,300 千円
		0 千円	0 千円	千円	千円	千円	0 千円
		0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
重要業績評価指標 (KPI)②	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
演劇関連産業への従事や 演劇技術の修得、研鑽等を 目的とした移住者数(家族を 含む)	12 人	3 人	20 人	20 人	30 人	30 人	103 人
		3 人	10 人	人	人	人	13 人
		100.0 %	50.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	12.6 %
重要業績評価指標 (KPI)③	事業開始前	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	増加の累計
坊っちゃん劇場観劇者数 (現状値:過去3年間の平均 値)	72,919 人	1,000 人	2,000 人	3,000 人	3,500 人	3,500 人	13,000 人
		8,864 人	7,303 人	人	人	人	16,167 人
		886.4 %	365.2 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	124.4 %

①事業成果に対する分析				
【成果の上がった点及びその原因】 KPI②(移住者数)については、構想の具体化により舞台芸術関係者の移住が生じ、地域おこし協力隊・坊っちゃん劇場役者などが自らの得意分野を生かした企画を展開中。KPI③(坊っちゃん劇場観劇者数)は、本事業による周知PR事業等の効果が波及していることが確認できる。小劇場にコストをかけ、交流スペースは簡素な作りとなったが、地域おこし協力隊のアイデアにより音楽ライブ会場や絵画教室の会場としての利用が進んでいる。 【成果の上がらなかった点及びその原因】 KPI①(拠点施設売上額)については、各種分野のアーティストの意見調整、耐荷重計算など施設設計に時間を要し、開館が当初予定の平成29年12月から翌年4月にずれ込んだため、年度内の売上げが生じなかった。なお、開館後(H30年度)は指定管理者の体制も整い、貸館事業、自主企画事業(公演等)とも徐々に売上げを伸ばしている。				
②委員のご意見				
・現時点は拠点となる箱が完成した状態なので、効果が出るのはこれからと思われる。 ・効果があったかなかったかについては、事業実施者側としては効果があったと言いたい内容はたくさんあることは理解できるが、やはり受益者からして本当に効果があったかどうかで判断すべきと思う。		・移住・定住に結び付けることは簡単なことではないが、他の真似事ではない非常によい構想をベースとしているのだから、あとはやり方の問題と、目標値は現実的にもう少し下げて、確実な効果が得られるような方法を検討すべきと思われる。		
③事業評価及び今後の方針				
事業評価	地方創生に 非常に効果があった	地方創生に 効果があった	地方創生に 一部効果がみられた	地方創生に 効果がなかった
今後の方針	1年度限りのハード整備事業である。 整備後は指定管理者による運営管理に移行する。			

4. 改善点、改善策は？(Action)

分析結果及び委員のご意見を踏まえた施策改善案
【成果の上がった点に関する方針及び具体策】 ・都市圏の舞台関係者が、地方に活躍の場を求めている流れは確実にあり、地方の側も創造性の高いまちづくりが必須になると予測する。今後は広報、営業面が課題となるため、アーティスト誘致だけでなく、広報、営業戦略の統括者を誘致する。 ・本施設は全国から人が集まる独自性を打ち出す必要がある一方で、近隣市町在住者の利用促進も重要であるため、施設特性を活かして身近なプログラムも提供していく。 【成果の上がらなかった点に関する方針及び改善策】 ・売上向上策として、坊っちゃん劇場役者による独自企画、地域おこし協力隊のネットワークを生かした地域連動企画、利楽との連動企画、道後温泉との連動企画などを実施する。 ・飲食提供を伴うサービスが実現できていないため、指定管理者による早期実現に向けて、具体的な計画を立てる。 ・収入源として見込んでいる8Kシアター事業について、事業実施企業等と協議を進め、早期開設に向けた具体的な計画を立てる。 【事業全体としての改善点】 ・公演、イベントに関しては、これまでの結果分析をもとに、真に顧客メリットがあり、参加料の見込める企画を絞り込んで実施していく。 ・現実的な売上目標を再設定し、毎年度確実に達成しながら、事業を拡大していく。